

	現況課題	草津市の良い所・自慢
	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模開発や田畑の宅地化進行は今後のまちづくりの中では重要 ● 中心市街地の活性化が必要 ● 大型ショッピングセンターの建設は草津にとって重要。ただし道路事情の悪化等デメリットもよく検討すべき ● 民間開発に行政のインフラが追いついていない。 ● 農家人口は少ないが農業は重要 ● 烏丸半島 9 ha の利活用について、水資源開発機構との調整が必要 ● 客に、草津は「ここ」と推すところがない ● 一般市民には市役所が、草津市がどんな所かがみえていない ● 住宅都市草津の特性を十分勘案した計画づくりが重要 ● 人口構造と動向に地域格差がある ● 「選択と集中」など財政状況に応じた行政運営が大切 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の都市化が進んでいるが、多くの農地が残る緑豊かな町
市民会議 (第1回～ 第5回)	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国籍市民との文化の違いと理解の難しさがある ● 公民館、市民センターの地域施設の有効利用が必要 ● 健康・福祉・教育文化、スポーツ施設の不足 ● 子どもの遊び場や子育て中の人が集まる場所づくり等子どもが育つ環境づくりが必要 ● 生涯学習の制度、運用の充実が必要 ● 文化芸術の発信・交流拠点が少なく、また、草津市のオリジナル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権意識が高い ● 地域協働学校の成果があがっている

	現況課題	草津市の良い所・自慢
	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業振興が必要 ● 人口増加につながるが、マンション乱立に対応する施策が必要 ● 草津川跡地を有効に活用すべき（防災、交通、分断解消） ● 急激な人口増加や旧草津川によりまちが分断されている ● ゴミ問題等環境問題に取り組む必要がある ● 他都市との役割分担も考えたベッタウンの行方を検討すべき ● 行政と議会の位置づけを明確に 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅の周りが魅力的である ● 買い物の便、交通の便がよく、生活に必要なハードが充実している ● 第一次、第二次産業が盛ん ● 人口増加により活気がある ● 行財政が安定している
市民意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民属性として、鉄道駅周辺の地域で転入者が多くなっている ● 居住歴が浅い転入者層では18歳未満の子どものいる子育て世帯が多い ● 道路整備や幹線道路、バス、鉄道の交通体系といった都市基盤に関する評価が低い ● 住み心地の面において、災害や犯罪に対する不安を抱える市民が多い ● 「保健、医療、健康管理」、「高齢者福祉」、「子どもの福祉、子育て支援」といった保健、医療、健康、福祉の分野に対する要望が強い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 草津市の交通利便性、買物利便性に対する評価が高い ● 自然の豊かさ、風景の美しさに対する評価が高い ● ごみの適正処理や環境美化に対する取組みの評価が高い

草津市総合計画策定市民会議

検討内容（中間報告）

■ 検討経過について

回数	開催日	検討内容	備考
第 1 回	平成 20 年 8 月 24 日	趣旨説明、草津市の概況把握、部会の編成	
第 2 回	平成 20 年 9 月 7 日	【GW】“わがまち草津”を語って、視察先を決めよう！	第 3 回 審議会 報告
第 3 回	平成 20 年 9 月 28 日	【GW】まちを歩いて、よいところや課題を確認しよう	
第 4 回	平成 20 年 10 月 5 日	【GW】草津全体の課題をながめてみよう	
第 5 回	平成 20 年 10 月 27 日	【GW】草津のまちの将来像について	
第 6 回	平成 20 年 11 月 24 日	【GW】これからのまちづくりの取り組みについて①	
第 7 回	平成 20 年 12 月 8 日	【GW】これからのまちづくりの取り組みについて②	
第 8 回	—	検討結果の取りまとめと構想への反映について	

■ 検討内容について

別紙のとおり

1. 安心・安全、人権、環境

豊かな自然環境が減りつつある

自然が減っている
⇕
都市と自然環境がよく調和している
自然・地形に恵まれている

災害が少ない

草津川跡地の有効活用を検討する必要がある

草津川跡地の活用が十分でない
草津川跡地を多目的に利用したい

環境問題に取り組む必要がある

ゴミ問題に対する意識が低い
ゴミやリサイクル行政は充実しているが市民は知らない
河川浄化に対する意識が低い
生活スタイルや考え方が違う

魅力的な公園整備が必要だ

公園整備の不足
⇕
公園の魅力・管理がよい
住民主体の公園の管理が必要だ

犯罪や安全性が不安だ

国による文化の違いと理解の難しさがある

人権意識が高い

3. 都市基盤

人口増加による活気

第一次、第二次産業ともに盛ん

工場施設が多い
地域の特色を活かした第一次産業の可能性はある

産業の振興を図る必要がある

産業上の立地がよい
産業振興のためにさまざまな方法をたためすことが必要だ
新規産業の育成が必要だ

交通環境が整備不足である

公共交通機関の不足
道路整備の不足
交通マナーが悪い

衰退した商店街を活性化したい

商店街が衰退している
郊外大型店との競争が激しい
商店街活性化の戦略をたてる必要がある

駅前の開発が急に進んでいる

地価が安い
中心部にマンションが多い
南草津駅周辺の活気と開発（大学の影響）
開発が中途半端

まちの分断

生活利便施設が充実している

交通の便がいい
大型商業施設の進出
買い物の便がいい
生活に便利で住みやすい
生活インフラが整っている

生活利便施設が不足している

集会所施設が未整備である
ゴミ処理場が不十分

2. 健康・福祉、教育文化スポーツ

子どもが育つ環境づくりが必要だ

子どもが育つ環境が整っていない
子どものための取り組みがある
母親を支援する場が必要だ

健康・福祉、教育文化・スポーツ施設が不足している

大規模スポーツ施設の不足
高齢者の活躍の場が少ない
医療体制の充実が必要だ
公共の病院がない

生涯学習の制度や運用を充実する必要がある

地域協働校の成果がある
生涯学習の内容や運営に課題がある

歴史的・文化的な魅力が不足している

都市景観の目指す方向が見えにくい
文化芸術の発信・交流拠点が少ない
オリジナルな魅力の不足
観光資源が少ない

歴史的・文化的な魅力がある

歴史文化が豊かだ
草津宿本陣が魅力的

4. 協働

多様な人々が市民活動に参加すべきだ

地域での取り組みが必要だ
学生や大学が参加すべきだ
学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ

市民と行政の協働をすすめる必要がある

市民と行政との対話の場をつくる必要がある
広報体制の拡充が必要だ

行政・議会の位置づけを明確にするべきだ

行政サービスを再検討すべきだ
市議会の位置づけを明確にしてほしい
行政の顔が見えにくい
行政の縦割りの弊害がある
多文化共生施策がない

行財政状況の安定

市民活動は重要だ

地域コミュニティが弱まってきた
市民活動が盛ん
⇕
福祉やボランティア活動が遅れている
市民活動への関心や参加をよびかける必要がある

地域施設の有効利用が必要だ

公共施設が使いづらい
民間の地域施設が活用できるのではないか
公民館の取り組みが始まっている
市民センター機能が充実している
⇕
市民センターの魅力づくりが課題だ
市民センター、公民館の役割を見直す必要がある
まちづくりセンターの運営協議会方式がよい
⇕
まちづくりセンターの利用団体調整が難しい
ボランティアセンターの運営の改善が必要だ

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容	
第1部会	人権意識が高い		平和のモニュメントで啓発してはどうか	
			人権や環境に対して意識が高い人が多い	
			人権が守られている	
	文化の違いと理解の難しさがある		外国からの転入者にゴミの分別の説明ができない	
			アジアから来た人はとけこんでいて気づきにくい	
			転入者だと気づかないことで理解できないこともあるかも知れない	
			夜に騒ぐなど、国によって文化の違いがある	
	豊かな自然環境が減りつつある	自然が減っている		割と自然が残っているが、ドンドン減っている
				緑が少ない(2)
		都市化と自然環境が程よく調和している		農産地と市街地が近接している
				緑と市街地がうまく分かれている
				田園などと都市部の両方がほどよく存在している
				発展しすぎず、田舎すぎず住みやすい(2)
			市街地と農村部が共存している	
			都市化と自然環境が程よく調和しているので、これ以上開発しないでほしい	
		自然・地形に恵まれている		環境に恵まれている(4)
				市街地と農村部が共存している
				気候が良い
			琵琶湖が近い	
			琵琶湖に接する長さが多い	
			琵琶湖岸に位置し景観が良い	
			緑、田園、湖に接し、広範囲な都市である	
環境問題に取り組む必要がある	ゴミ問題に対する意識が低い		現在は処分できない分は大阪湾に埋め立てしているが、市民は知らない	
			分別するとプラスチックのゴミが多いが、再生は難しい	
			ゴミの投棄が多くなっており、モラルが低下している	
		草津川の草を堆肥にしてリサイクルしたいが、廃棄物として処分しなければいけないのか		
	ゴミやリサイクル行政は充実しているが市民は知らない		草津の分別の説明書はわかりやすい	
			ゴミ拾いのボランティアで、行政からは大型ゴミなどは拾わないでほしいと伝えられたが、実際には行政は場所を教えてほしいと考えており、相互に正確な情報が伝わらない	
		河川の泥はセメントなどにしてリサイクルしている		
	河川浄化に対する意識が低い		河川から琵琶湖への水のサイクルを考える人が少ない	
			農繁期になると河川に油が浮く	
	生活スタイルや考え方が違う		リサイクルのシステムが充実すれば税金も有用に使えるのに	
			リサイクルに対する考え方も市民によって違う	
			生活スタイルに対する考え方が新住民、旧住民で異なる	
		新住民には、煙や蛙の鳴き声も公害になる		
		新住民は前に住んでいたところ(都会)と同じ行政サービスを期待する		
	行政としては、旧来の生活スタイルについて指導するのは難しい			
	生活スタイルやリサイクルに対する啓発活動が必要だ			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容	
	魅力のある公園の整備が必要だ	公園の整備が不足している	中心地に公園、芝生の広場がない、少ない (2)	
			人が集うような、コミュニティの中心となるような場所に公園がない	
			児童館、児童センターがない (無料で自由に遊びに行ける場所)	
			子どもが一人で行けるような駄菓子屋が少ないので、老人会で駄菓子屋を担ってもらい、たまり場的な機能をもたせられないか	
			公園の管理が悪い	
			公園が放置されている	
			公園の遊具が多すぎる	
			ロクハ公園に食事ができるログハウス等があればよい	
			ロクハ公園はイベントが少ない	
			ロクハ公園は公園へのアクセスが少ない	
			ロクハ公園はアクセスが不便である	
			ロクハ公園は子どもだけでは遊べない	
			ロクハ公園は交通の便が悪く利用者が少ない	
		安全な子供の遊び場が少ない		
		公園の魅力・管理が良い	南草津団地の公園の管理では、毎週1回草むしりをしている	
			ロクハ公園にはカフトムシの家がある	
			ロクハ公園では、土の上を歩いたり緑をみたりしてほっとする。	
			ロクハ公園では、遊具に頼らず、自然を活かした公園で心がやすらぐ	
			ロクハ公園は市民に愛されている	
			ロクハ公園は、意外と利用者が多い	
			ロクハ公園は、親子で遊べるのがよい	
			ロクハ公園プールの人気が高い	
		博物館、水生植物公園以外にレジャーを楽しむ人が意外と多い		
		住民主体の公園の管理が必要だ	市民主体で公園管理すれば、リサイクル活動も進む	
		災害が少ない	災害がない、少ない (5)	
		草津川跡地の有効活用を検討する必要がある	草津川跡地の活用が十分でない	草津川跡地が充分活用できていない
				旧草津川の取り扱いが不明だが、災害時に使える施設にならないか
人通りが少ない				
荒れた印象がある				
空き地を利用できていない				
街灯が少ない				
利用が決まっていなくて管理が大変だ				
草津川跡地を多目的に活用したい	桜などの憩いは残したい			
	草津川も市民主体で使っていきたい			
	草津川の利用をもっとすべき。			
	ゾーン別の利用よりも草津市全体としての利用法を模索するべきだ			
	防災拠点+道をセットで整備できないか			
	物騒なことが多い			
	犯罪が多い			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容		
	犯罪や安全性が不安だ	犯罪や安全性が不安だ	重大犯罪が少ない		
			軽微な犯罪は多い		
			自転車の盗難などの犯罪が増えつつある		
			治安が不安		
			子供だけで安心して遊べる場所がない		
			大型商業施設に子どもが遊びにいった場合、周囲の大人の目が行き届かないためのトラブルが心配		
			大学生の路上駐車への対応で住民の理解が難しいところもある		
			子供の見守り活動のための商店とか高齢者が集う場所があるといいと思う		
			子どもの安心安全活動で、学生ボランティアと町内会が連携している		
			電球の取り替えを町内会で取り組むところもある		
		防犯活動で警察と協力して活動しているところがある			
		防犯の学生ボランティアが南草津駅周辺のゴミ拾いをしている			
		第2部会	子どもが育つ環境づくりが必要だ	子どもが育つ環境が整っていない	まちに子どもがいない。
					昔の駄菓子屋のような、子供の友達づくりができる場が少ない
児童館がない					
私立幼稚園が草津駅周辺に集まっているため、その他の地域の人が通にくい					
幼稚園の入園に制限がある					
公立の幼稚園は3年保育をしていないため、私立に人気集中する					
子どものための取り組みがある			登下校の見守りの取り組みが進んでいる (3)		
			子育て中の人が集まる場所が少ない (3)		
母親を支援する場が必要だ			特に0歳児のお母さんは孤独に陥りやすく、支援が必要		
生涯学習の制度や運用を充実する必要がある	地域協働合校の成果がある		地域協働合校が11年目に入り、特色が出ている		
	生涯学習の内容や運営に課題がある		社会教育関連団体が多様化しているが、世代交代ができておらず、同じ人が担うケースが多い		
			社会福祉団体も多様化し横のつながりがない 生涯学習関連の情報が分散し、検索しづらい		
都市景観の目指す方向が見えにくい			町の景観が、あまり良くない		
		都市景観の目指す方向が見えにくい			
		四季を感じるものがない。			
		花がない。			
		烏丸半島の空き地利用は？ (3)			
		風車はシンボルになっているか？			
		烏丸半島の施設計画は集客が難しいのでは？			
		烏丸半島の施設計画は使用用途・目的を明確にしないと不安、もったいない			
		烏丸半島の施設計画は中途半端にならない利用計画をたててほしい			
		三ツ池の残りの2つの池は憩いの場として活用できないか？ (2)			
		三ツ池はせっかくだから全土地を市の建築物にすればいいのに			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容
	文化的な魅力が不足している		三ツ池はサッカー場の芝が天然の場合、年に50回程度しか使えない
			三ツ池は中心部に近く、便利な場所にある
			三ツ池は思っていたより広い(3)
			三ツ池は埋立地と住宅が隣接している
			三ツ池は施設の内容が盛り込みすぎではないか
			三ツ池は企業売却部分の内容が共存できるものか
		文化芸術の発信・交流拠点が少ない	映画館がない
			大きな市民ホールがない
			文化芸術の発信・交流拠点が少ない
			市主の文化施設がない(ホール)
			「歴史・文化行政が近隣市町より弱い」と言われる
		オリジナルな魅力が不足している	文化施設が少ない
			歩いて魅力のある街にする必要がある
			商店街、文化ゾーンも含めて、何の興味もない街になっている。
			人を呼び込む魅力がない
			買い物に京都、大阪に行ってしまう
			郷土料理がない?
			全国的に有名なお土産がない
			町のターゲットがどんな人なのか見えない
			草津といえば・・・というシンボル、核、ブランドがない(5)
			地味なイメージ(大阪から見ると大津以北はよくわからない)
			誇れるものがない
			群馬の草津と間違われる(2)
			花火大会がない
			おいしいそば屋がない
		観光資源が少ない	観光資源が少ない 活かしていない(2)
			歴史文化の観光に力が入っているとは思えない。
			修学旅行生が琵琶湖博物館などに来たとしても、宿泊施設がない
			観光客にとって草津は狭間の時間(メインは京都など)
			草津宿本陣の近隣に観光客立ち寄るようなところ(観光名所、土産物屋など)がない
			烏丸半島～草津宿本陣～観光地が点在している。どうしても車での移動観光になる
			観光客の動線が悪い。もう少し歩いてみたいと思えない。
			良い所が点々とあるのに本陣くらいまでで止まってしまう。
			本陣周辺は地区計画ができていなかった街。特にでこぼこの軒先。
			歴史交流館の利用者が日曜日なのに少ない。むしろ皆無。
			本陣周辺に歩くと一息つける場所がほしい。ベンチなど。
シネマハウスの利活用。部屋の貸し出し、その他が考えられる			
酒蔵、太田道灌をもっと活かす。			
本陣周辺は店舗の跡地が小さな駐車場となっている。月極めが多く観光客は使えない。			
本陣周辺には公共スペースがない。			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容	
	歴史的・文化的な魅力がある		本陣の標識が「東海道」ではわかりにくい。	
			旧東海道の目印がわかりにくい。	
		歴史文化が豊かだ	歴史文化の街	
			古い建物が結構ある。	
		草津宿本陣が魅力的だ	東海道と中山道の交差する宿場町	
			草津宿本陣が魅力的 宿場の景観を統一できれば美しい 本陣の前のホールは楽しみ、文化の色が出てほしい。	
	健康・福祉、教育文化、スポーツ施設が不足している	大規模スポーツ施設が不足している	大規模なスポーツ施設（1万席以上）がない（Jリーグを目指す草津のチームがあるが、大会は他市での開催が多い。草津市に施設が誘致できれば、経済効果は大きい）	
			ゴルフ場がない	
		高齢者の活躍の場が少ない	どこの施設でも年配の人の姿を見かけない。出かけられる場所が必要 高齢者のパワーを発揮する場所がない	
			高齢者が活躍の場として駄菓子屋など商売をして、子供の見守りもしてくれるといい	
			退職した人（特に男性）が活動し始めづらい	
			今の高齢者は受身な感じ。プログラムを用意してもらえるところに出かけることが多い	
		医療体制の充実が必要だ	ホームドクターの休日診療制度を充実してほしい（小児科に集中している）	
			休日診療救急センターは専門の医師が少ない	
		公共の病院がない	公立の医療機関がない（他市にはあるのに、市民にとってどうか）⇔（逆に、民間で成り立つのならばない方がよいのでは？）	
			公共の病院がない 烏丸半島の施設を病院や老人施設を含む総合コミュニティゾーンにできないか	
		第3部会	人口増加による活気	人口増加（2）
				人口増加したため（県内他市より）活気がある（5）
				人口が多すぎる
				人が多すぎない
人口が程よい状況にある				
若さや先行きの可能性をもった町である				
中心部にマンションが多い	駅前にマンションがはりつき過ぎ			
	中心部は商業地なのにマンションが多すぎる			
	住宅供給過剰（学生マンション・企業マンション、バブルの様相を呈している）（2）			
	駅前がマンションだけというのは、将来問題になる。 マンション乱立地域に緑が少ない。緑が少ないマンションは、将来的に価値が下がる可能性がある。			
駅前の開発	地価が安い			
	大阪や京都と比べると地価が安く、住宅を購入しやすい 南草津駅周辺が開発されてきた 店舗が駅前に集中して、目的が明確に達成できる便利なまちだと思う			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容
	発が急にすすんでいる	南草津駅周辺の活気と開発(大学の影響)	南草津駅前には活気がある。
			南草津は若い町であり活気がある
			南部地区に活力を感じる
			大学があることで、開発が進んでいる(2)
			若者が多く街に活気がある
			立命館大学があり若者が多いので活気がある
		開発が中途半端	開発には、先をみた土地利用のコントロールが必要 (開発が)何事も中途半端
	まちの分断	まちの分断	旧草津川が都市を分断している
			東西が旧草津川、南北がJRで分断されている
			南と北の状況が異なることに注目することも必要だが、最終的にはそれらをつないでいくことを考えることになるだろう
			急激な人口の増加(旧野路町の分断)
			急激な人口の増加による旧野路町の分断
交通環境が整備不足である	公共交通整備の不足	車等がないと生活が不便だ	
		車以外での交通手段がない	
		市街地以外では車なしでは生活できない	
		交通(公共の)が不便だ	
		南草津駅に新快速が止まらない	
		路線バスの運賃が高い	
		バスが少ない(立命館大学よりも先へ行くとバスがとても少ない)	
		商店街を循環するような無料バスがない	
		バスが高い、少ない(観光スポットをめぐる場合に、たとえば草津宿から琵琶湖博物館へバスで行こうとしたら、アクセスが悪く本数も少なく料金が安い)	
	道路整備の不足	渋滞が多い	
		主要幹線・道路が集中している	
		道路が混んでいる(国道1号)	
		中心市街地への道路アクセスが悪い。また、駐車場が少ない。	
		道路の渋滞・年々悪化している(特に南北の道路が詰まる)	
		道路インフラが追いついていない(抜本的解決には車そのものを減らす必要がある)	
		道路が狭い(4)	
		道路が複雑	
		道路が混む	
国道1号のアクセスが混む。			
草津川により交通の便が悪くなっている			
三つ池周辺の道路は混雑している			
生活道路の整備が十分でない			
歩道が狭い(そのため自転車と歩行者が一緒)(2)			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容		
			歩道～車道の段差が危ない		
			歩道の真ん中の電柱は再検討する必要がある（トンネルの出口など）		
			交差点の信号間隔が短いので、渋滞する。人も渡りにくい。		
			サインが分かりにくい。		
			自転車置き場がバラバラで使いづらい		
			通過交通しかない		
			住宅街の通り抜けが多い		
			草津駅前（道がごちゃごちゃしている・かつては開かずの踏み切り）		
			駐車場がない		
			駐車場が狭い		
			交通マナーが悪い	交通マナーが悪い	
				道路にゴミをよく捨てられる	
				駅周辺等路上駐車がが多い	
				烏丸の民活予定地付近の路上駐車がが多い(2)	
				駅前ロータリー駐車の車が多い	
				学生の交通マナーが悪い（学生だけでひとつのまちの規模を持っているのだから、いい人も悪い人もいて当然といえば当然である）	
			生活に必要なハードが充実している	交通の便が良い	草津は交通の要所だ (2)
					大阪、京都への通勤圏 (3)（そのため人口増）
	京阪神への立地がよい				
	京都大阪に出かけやすい				
	通勤しやすい				
	交通の便が良い (5)				
	交通がある程度便利だ				
	インフラ整備が進んでいる				
	JR、道路などのアクセスが良い、JR、高速道などの幹線がわりと便利				
	道路が整備されている				
	車で移動しやすい				
滋賀県の中での位置が中心に近い					
京阪神への利便性がよい（新快速の登場で際立った。バブル期には終の住処として草津を選ぶ人も）					
買い物の便がいい		買い物の便がいい			
		暮らしに必要な日常的な買い物だけでいい街になっている。 スーパー、店が多く、近いところで買える（物価も安い） (3)			
大型商業施設の進出		大型商業施設の進出により生活が便利			
		大規模店舗の充実			
生活に便利で住みやすい		まちとして適当なサイズを有している			
		生活する環境（衣・食・住）が整っている			
		生活に便利で住みやすい (3)			
生活インフラが整っている		清潔、ゴミが少ない			
		上下水道設備が整っていて良い 溝ぶたの段差が解消できている			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容
	生活に必要なハードが不足している	ゴミ処理場が不十分	ゴミ処理場が不十分
		集会所施設が未整備である	南草津団地集会所の入り口にスロープがないため高齢者が利用しにくい
第一次、第二次産業ともに盛ん	工場施設が多い		大手メーカー工場が多い
			現在の企業は弱電が多い。不況だと同じように業績が下がる危険がある。業種が偏っていることは弱み
	地域の特色を活かした第一次産業の可能性はある		農業が盛ん
			山田の草津メロンは、守山より安くて、おいしいとも言われている。
			ホンモロコやアオバナに着目して振興策をやっている。いずれも減反対策としてやってきた。
			草津のよい環境を生かしきれていない 漁業体験なども可能ではないか。
産業の振興を図る必要がある	産業上の立地がよい		草津のいいところをあげて、それを生かすことが大切。例えば、交通の要衝であることなど
			新名神は、草津にとってプラスになった
			湖南エリアは、まだ成長する可能性のある地域
			交通の要衝であることが利点。この強みがどんな産業で生かせるか
			例えば、10t運んで、100万ではなく、億稼げるような、付加価値の高さが必要。先端産業などか。
			交通の要衝を生かせるとよいが、一方で、環境面からは、トラック輸送は見直しの方向でもある。
		企業進出には、労働力確保も指標になっている。その意味で、湖北や湖西より、湖南は有利。	
	産業振興のためにさまざまな方法をためすことが大切だ		すべての産業において他都市の成功事例を参考に！
			がんばった人は儲けていい。成功事例、成功体験をひとつでも多くつくっていくことが大事。
		計画的な土地利用による産業育成が必要だ	
			工場を立地させる時のマップ、計画性のある土地利用をどうするか、考える必要がある。
新規産業の育成が必要だ		土地が少なくてもよい。生産性の高い、高付加価値の産業育成が必要。中国や韓国の企業を誘致するのもひとつ。	
		草津市では、ベンチャー支援も結構やっている	
		大学があることはプラス。大学と連携を強めて、ベンチャー支援などを進めるべき	
職場と住まいが両立			職場がコミュニティスポットの真ん中にあるとよい
			商店街が細分化され過ぎ
			旧市内に活力がない
			商店街が寂しい (3)
			商店街の後継者がいない
			商店街はシャッター通り。ポテンシャルはある。行政の力だけでは何ともならない。地域通貨も肝心の商店が盛り上がらなかった
			シャッターが閉まっている

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容
	衰退した商店街を活性化したい	商店街が衰退している	シャッターが閉まっているのが寂しい
			シャッター通りになりつつある。
			日曜でも店をあけてほしい
			閉まっている店が多く寂しい
			平日より日曜が休みの店が多い
			人や自転車の通過道路になっている。
			6丁目から4丁目のお店のお客が4軒で4名であった。
			興味をそそられるようなお店が連続していない
			商店街が日曜日なのに人が歩いていない。
			商店の努力も足りない。
			住宅や病院が店舗の間に入り乱れているために、歩いて楽しめない。
			屋間しまっている居酒屋が増えているため屋間がさみしい。
			まちなみがそろっている所とそうでない所がありバランスが悪い。
		間口の狭い店が多い。	
		駅前商店街では、魚屋も10件ほどあったのが1件になってしまった。	
		郊外大型店との競争が難しい	平和堂は、1号店故、残っているらしい。現在は駐車場が義務付けられているので、建て替えは難しいが。
			大型商業施設による商店街の衰退 (2)
			今の商店街は、普段の買い物の機能を維持するのにも、何か手をうたないといけない状況だ
			商店が閉まっていて楽しめない。楽しめる工夫が必要だ
			衣、食、興味の連続をつくる必要がある
			地域コミュニティ向けの商店街。歩いて暮らせるまちのあり方も考えたい。イオンができて、車で買いに行きにくい、行けない人たちもいる。
		商店街活性化の戦略をたてる必要がある	商業地域については、人の流れを意識的につくる。例えば、駅からの流れ、車の流れ
			まず、地元の人に来てくれるように。そこから外向けにも広がるのではないか。
			地産地消をもっと積極的に進める。(目標、ターゲットを明確に)
			観光客向け、地元向け、オフィス街向けなどターゲットをどこにしていくなか
			どこの客をとってくるのか、ターゲットを明確にする必要がある。食うか食われるかの世界で、勝つための戦略が必要だ
			第4部会
旧住民には古い価値観にとらわれている人もいる			
新旧住民が交流しない、交流が少ない、ギクシャクしている (4)			
新住民どうしの交流が少ない (2)			
人の入れ替わりが激しい (協働の難しさ)			
市民がまとまりにくい			
住宅団地では同世代の方々が集うので、世代を超えた広がりを持つことが難しい			
団地でも、共生できる環境づくりが必要だ (例) 多世代混住の推進			

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容
	市民活動は重要だ	地域コミュニティが弱まってきた	団地では人が減りつつある
			住宅団地単位では課題が共有できるが多用なニーズには応えられない。他地域との連携が必要
			学生や一人暮らしの人で自治会に入らない人がある
			運動会など行事に出てきてくれない
			向こう三軒両隣（近隣コミュニティ）がなかなか進まない
			サポートコミュニティ等、必要なものであれば自然に組織や団体が出来上がっていくのではないかと。そもそも町村コミュニティってそういうものだと思う。すたれていっているor活発でないということは、「必要とされていない」ということではないのか？必要とされていないのであれば、より必要とされるものに形を変える、または廃止する等していく方がシンプルでよい
			コミュニティが崩壊しているのは必要とされていないのか、地域内教育もなくなるのではないかと
	市民活動が盛ん		市民活動をやっているとおもしろい人との出会いがある
			市民活動が盛ん（2）
			地域活動が低迷している中で、テーマ型のボランティアが主流になってきた
			小学校・中学校 協働合校がある（大阪などにはない）
			70歳以上が引っ張ってきた南草津団地の活動
	南草津団地は町内会全体が高齢化する中で、周辺町内会との交流（子育てサロン）の場がある		
	福祉やボランティア活動が遅れている		他市に比べ福祉やボランティア活動が遅れている
			無関心層の対応が必要だ
	市民活動への関心や参加をよびかける必要がある		勤労世代の参加方法を検討する必要がある
			「私やらんでも誰かがやってくれるんやろ」と言いつつ、その結果に文句を言う人が多い。
			でも、その人たちを教育していくのは大変。人は自分自身が本当に必要だと思わないと動かない。イヤイヤだとまた文句が出る
			ボランティア活動の大切さについて気づきのための取り組みが必要だ
			社会参加に対する意識づけ（子どもの頃からの）
	地域教育は誰がするのか（学校ではない）		
公共施設が使いづらい		市の施設の設備が使いにくいので、市民が施設の設計にかかわってはどうか	
		施設の有効利用（開放）やノウハウの提供（気付き e t c）（それぞれの立場から発信）つなげるしかけづくり	
民間の地域施設が活用できるのではないかと		大学のグラウンドで少年野球チームの活動（大学施設の活用）	
		老上公民館では「地域協働合校」の取り組み（幼稚園・小学校・中学校・公民館が近くにあるので連携しやすい）	
公民館の取り組み		老上公民館は「あいさつ通り」「わんぱくプラザ」など活発	
		老上公民館の学区内は様々な自治会があるので、一緒くたに議論するのは難しい	
		まちなかの公民館で共同畑をつくってはどうか	

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容	
地域施設の 有効利用が必要だ	市民センター機能が充実している	市民センター機能が充実している	市民センター機能が充実している	
			市民センターの役割が大きい	
			老上公民館は、現在は市民センターとして届出発行	
		市民センターの魅力づくりが課題	市民センターの魅力づくりが課題	市民センターの魅力づくりが課題
				市民センターが地域に溶け込んでいない
				市民センターのスタッフが排他的である
				市民センターは市民団体間の調整をしてほしい
				市民センター化により利便性は向上、使い勝手は要進化、運営（会館）スタイルは要改善だ
				市民のための施設であるならばもっと開かれた運営を考える必要がある
				イメージが暗い
				地域の拠点活動なので参加しない人をいかに参加してもらえるか
				館長によって運営が違う
				市民センターが生涯学習プログラムの提供や情報発信の機能をなかなか担いきれていないので、もっと特色がほしい
	職員体制はいつそのこと米原方式（管理委託）もよいのではないか			
	全学区一斉システムは難しいのでモデル地域はどうか？			
	市民センター、公民館の役割を見直す必要がある	市民センター、公民館の役割を見直す必要がある	市民センター（公民館）の日曜開設は必要か？（1日1件ということもある）	
			市民センター（公民館）の数は13も必要か？中学校区ごと程度でもよいのではないか。	
			市民が求める行政サービスと提供される市民サービスは合致しているのか？	
	まちづくりセンターの運営協議会方式がよい	まちづくりセンターの運営協議会方式がよい	運営協議会で市民と行政・財団が対等に話し合う	
			まちづくりセンター 利用者・所有者・管理者との協働による運営協議会	
まちづくりセンターの利用団体調整が難しい	まちづくりセンターの利用団体調整が難しい	まちづくりセンター 利用の仕方が異なる各団体の調整の難しさ		
		まちづくりセンターが特定の団体しか利用されていないのでは（利用しづらい）		
ボランティアセンターの運営の改善が必要だ	ボランティアセンターの運営の改善が必要だ	市ボランティアセンターは形だけのような気がする。一般市民が利用しにくい。（特定の人だけが利用しており、市民には遠い存在）		
地域での取り組みが必要だ	地域での取り組みが必要だ	小地域での協働は見えるが、ここまで大きくなると見えにくい		
		地域ごとの協働のあり方が必要だ		
		学生団体には、夏祭りなどのイベントに参加してほしい		
		学生と町内会との防犯活動ボランティアを続けたい		
		学生団体の小学校中学校の授業等支援ボランティア活動がある		
学生や大学が参画するべきだ	学生や大学が参画するべきだ	産官学民の連携スタイル。現状は官が中心で、その他とは放射的關係が強い。官中心一辺倒から、産学民それぞれ中核となる様な運営スタイルをめざしていくべき（それぞれが個々のつながりになっていて、ネットワーク化されていない）		
		学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ		
学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ	学生にとって魅力のある地域づくりが必要だ	学生が地域に残らない（1ターンはない）		
		地域内雇用が少ない（空洞化）		
		求められる市民サービスの多様化に行政はどこまで対応できるのか？		
		公と私の区別をどこに置くのか？（市民サービスの範囲）		

第2回～4回市民会議のグループワークの結果
(網掛け:課題)

部会	大項目	小項目	付箋内容
	行政・議会の位置づけを明確にするべきだ	行政サービスを再検討するべきだ	市の職員の数は減っているが、なぜ市議会議員の数は減らせないのか？ 市全体のトータルビジョンの視点で議論できる政策立案機能（あるべき姿）が必要だ
		市議会の位置づけを明確にしてほしい	市議会は議会としての機能を果たしているのか？
		行政の顔が見えにくい	市役所の部署の名称変わりすぎ（覚えた頃が変わる）
			行政の顔が見えにくい
			草津の中心でイベントが多い（琵琶湖側や、山側での開催が少ない） 市の中心市街地の改善・改革の手の打ち方が小さい。
		行政の縦割りの弊害がある	行政の縦割りの弊害がある、融通が利かない
	多文化共生施策がない	多文化共生施策がない	
	市民と行政の協働を進める必要がある	市民と行政との対話の場を作る必要がある	住民の活動を行政が支援してほしい
			異動のある行政職員とのパートナーシップの難しさ
			ひざをつきあわせるような行政との対話が少ない（各トーク（市長etc）はシナリオができています）
市民のニーズをいかに効率的に市へ届けるか（本当に求めているもの）			
広報体制の拡充が必要だ		他の行政団体との連帯が良好とは言えない（市役所社協コミセン市民企業）	
		広報くさつを使った行政告知（市民は意外に読んでいます）	
行財政状況の安定	行財政状況の安定	市政情報の入手方法 広報くさつの活用率がとくに高い	
		IT社会とはいえ、幅広い年代で利用できる「広報くさつ」の必要性は高い	
		地域版SNSはおもしろいのでけっこう見ている	
		夕張のように破綻していない	